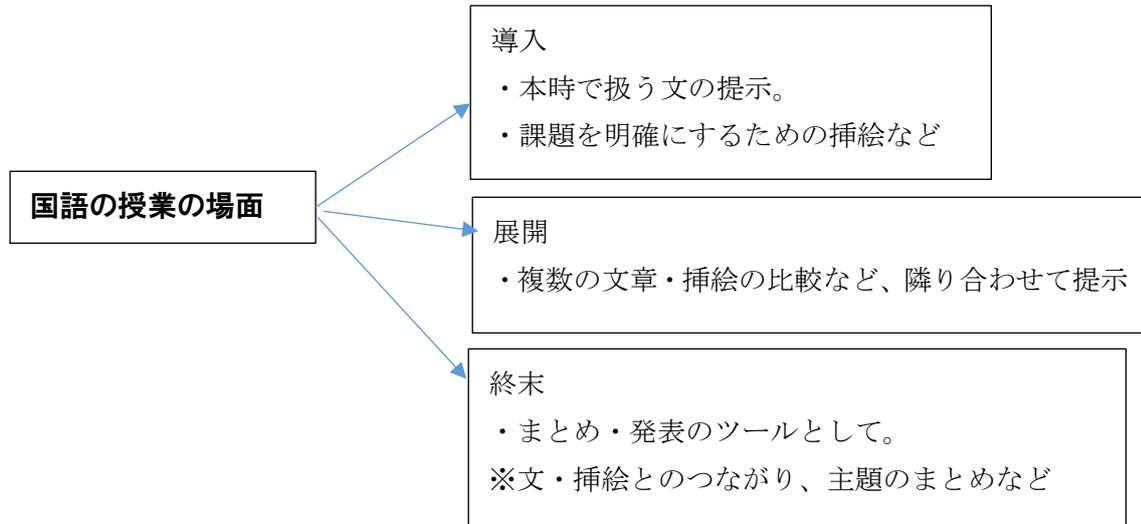


豊かな思考を表現する子

- 課題を明確にすることで、思考を促す。
- 学習活動をシステム化(四段階学習、学習規律)することで、自主的に学習する子を育てる。
四段階学習→かみわざ学習 (か…課題は何かな? み…見つける わ…わかる ざ…the next)
- 多様な発表の型を活用することで、思いをそのままに伝えることができる。
(ICT 機器を使ったさまざまな表現)



「かみわざ」(四段階学習)の留意点

- 「か」
 - ・課題の明確化(児童が見通しを持ちやすい課題の提示を)・・・・・・・・課題黒板使用(赤)
- 「み」
 - ・本文や図、グラフなどから自分の考えの根拠となる部分を見つけ、自分の意見を持たせる。
 - ・一人学びの時間は児童の実態に応じる。支援が必要な場合は、教師が声をかけて補助する。
- 「わ」・・話し合いの際の留意点
 - ・話し合う目的を明確にする。
 - ・1 単位時間の中で、どの過程に設定するのが一番効果的かを考える。
 - ・意図的にグループのメンバーを構成し、話し合いの活性化を図る。

生活班の仲間で構成・・・考えの確認をする場合
同じ課題の仲間で構成・・・視点を絞りやすい、1つの答えに導く場合
違う課題の仲間で構成・・・多様な考え方に触れることができる
異なる習熟度での構成・・・リーダーとなる子が引っ張り結果を出せる
習熟度別での構成・・・低位の子どもも話し合いに参加しやすい

- ・子どもの実態や目的に応じ、活動単位（ペア・グループ・全体）を決める。

ペ ア→ 2 人で考えを伝え合い、確かめ合う

グループ→ 3 ～ 4 名程度で考えを伝え合い、考えを広げたり深めたり、より良い考えを見つけたりする

全 体→ 全員で多様な意見にふれ、より良い考えにまとめていく

○「ざ」…The Next

- ・課題に対して正対した「まとめ」であるか。……まとめ黒板使用（黄色）
- ・本時の学習の振り返りをさせる。（物語について、国語について）※授業内容に応じて。
- ・類題などを解かせて、学習の定着を図る。

豊かな思考を表現する活動の設定

① 語彙力向上プリントの活用。

家庭学習の最初の項目の担任からのプリントで、定期的に入れてさまざまな語彙の表現に意図的に触れさせる。

② 原稿に頼らない（見ない）発表・・・朝の会、帰りの会、自由研究発表会など（発達段階による聞き手の反応を見ながら、自分の言葉で話すことができるようにする。

③ 家庭学習の音読への取組

教科書だけではなく、図書の本を活用しさまざまな表現に触れさせる機会をもたせる。

④ 辞典を使った語彙力の定着